

富士宮の歴史

通史編 I

General History Volume I



静岡県富士宮市

富士宮の歴史

General History Volume I

通史編 I

【表紙写真】

- ・ 滝戸遺跡出土土器（左：曾利式、右：堀之内式）
- ・ 丸ヶ谷戸遺跡（前方後方型周溝墓）
- ・ 今川氏真判物
（大宮司富士家文書、静岡県立中央図書館蔵）
- ・ 富士曼荼羅図
（富士山頂部を抜粋、富士山本宮浅間大社蔵）

ご挨拶



このたび、『富士宮の歴史 通史編Ⅰ』を刊行できますことを、心からうれしく思います。本書では、富士山の噴火がつくり出した大地のうえで、遠い昔に人びとが暮らした先史時代から、古代の社会の姿、富士山とともに育まれた信仰、そして中世の武家勢力の動きに至るまで、富士宮の歩みを形づくった長い歴史が丁寧に紹介されています。どれもが、今の富士宮を支える大切な土台であり、こうした歩みを知ることが、私たちのまちをより深く理解し、これからの未来を考えるうえでも大いに力になることでしょう。

社会が大きく変わり続ける今だからこそ、地域の歴史に目を向け、ふるさとへの思いを確かめることは、とても大切だと感じています。本書が、市民の皆さまにとって富士宮の歴史の魅力に触れ、次の世代へと大切に受け継いでいくきっかけになれば幸いです。

結びに、本書の刊行に際して調査、執筆、編集にご尽力いただきました市史編さん委員・執筆員・監修者の皆様をはじめ、資料の提供や調査にご協力をくださいました皆様方に心から感謝申し上げます。

令和八年三月

富士宮市長 須藤 秀忠

はじめに

『富士宮の歴史 通史編Ⅰ』では、先史時代の旧石器・縄文・弥生・古墳時代から古代・中世までの富士宮の地に生きた人々の歴史を叙述した。

富士宮における人類の足跡は、移動しながら狩猟・採集生活を営んでいた旧石器時代に遡る。小塚遺跡は、今から約二万七〇〇〇年前の信州系黒曜石供給の拠点である。この時期は、最終氷期の最も寒い時期に向かう寒冷化した気候であった。土器が出現し定住化が進行した縄文時代には、富士宮ではその初期、草創期の約一万五八〇〇年前の様相を示す大鹿窪遺跡が発掘されている。小塚遺跡・大鹿窪遺跡は芝川流域にあった。

弥生時代には日本列島では水田耕作と金属器の使用が始まるが、富士宮の丘陵上に立地していた渋沢遺跡や古墳時代前期の星山丘陵の月の輪平遺跡などでは、水田耕作ではなく畑作や狩猟・採集に依存していたとされる。

また、縄文時代中期の千居遺跡は富士山の噴火によって集落が存続できなくなり、縄文時代晩期や古墳時代中期の遺跡の激減は、富士山の噴火による災害の影響が考えられている。このように富士宮の遺跡を残した人々は、気候や地形などの自然環境の制約や富士山の火山活動の影響を受けながら、それに対応する知恵を蓄積してきたのである。

こうした先史時代からの人々の営みを受け継ぎながら、富士宮の歴史は古代・中世へと展開していく。

富士宮市は駿河国の東部、富士山の南西麓に位置している。海に近い場所なので海産物も手に入り、潤井川や芝川が流れていて耕地も多く、富士山麓にあるので山林資源には事欠かない。人々が生活するための条件が揃った豊かな地域で、甲斐国と駿河国とを結ぶ交通路も通っていた。こうした場所だったので、政治権力の中心にいた人々によって統治されることが多く、平安時代には天皇家、鎌倉時代には鎌倉の北条氏の支配下に置かれ、戦国時代には今川・北条・武田・徳川といった大名たちの争奪の対象となった。

富士山の南西麓には原野が広がり、鎌倉時代の初期、源頼朝によって大規模な巻狩りが挙行されたことはよく知られている。また、富士山を信仰した人々が参詣や修行のために山に登り、そのありさまを描いた参詣曼荼羅も作成された。大宮に鎮座する富士山本宮浅間大社は駿河国の中心的神社として存在感を放ち、興法寺（村山浅間神社）は修験者たちの修行の拠点となった。日蓮の教えを受け継ぐ寺院が各地に創建されたことも、この地域の大きな特徴といえる。

本書では、先史時代から古代・中世に至るまでの地域の様相と人々の動向について、要点を押さえる形でまとめ、親しみやすくするため写真や地図などをふんだんに収載した。地域の歴史に思いをはせていただくきっかけになれば、なによりのことと願っている。

市史編さん委員 谷川 章雄

山田 邦明

ご挨拶

はじめに

目次

例言

第一編 先史

第一章 旧石器時代

第一節 富士宮市の旧石器時代…………… 2

第二章 縄文時代

第一節 縄文時代の概要…………… 8

第二節 静岡県と富士宮市の縄文時代…………… 10

第三節 富士宮市の縄文時代草創期…………… 12

第四節 富士宮市の縄文時代早期…………… 17

第五節 富士宮市の縄文時代前期…………… 19

第六節 富士宮市の縄文時代中期・後期…………… 21

第七節 富士宮市の縄文時代晩期…………… 26

第三章 弥生時代

第一節 弥生時代の概要…………… 28

第二節 静岡県内の弥生時代…………… 30

第三節 弥生時代の終焉…………… 32

第四節 富士宮市の弥生時代中期…………… 34

第五節 富士宮市の弥生時代後期…………… 36

第四章 古墳時代

第一節 古墳時代の概要…………… 40

第二節 東海東部地域の古墳時代…………… 44

第三節 富士宮市の古墳時代前期…………… 46

第四節 富士宮市の古墳時代中期…………… 52

第五節 富士宮市の古墳時代後期…………… 54

第二編 古代・中世

第一章 古代・中世の富士宮地域

第一節 古代・中世の風土と生産…………… 62

第二節 富士郡と富士上方、廬原郡と蒲原荘…………… 68

第三節 郷村の広がり…………… 74

第四節 古代・中世の遺跡と様相…………… 80

第五節 中世の道と宿…………… 84

第二章 鎌倉・室町時代の富士宮地域

| | | |
|-----|---------------|-----|
| 第一節 | 源平の争乱と富士地域 | 88 |
| 第二節 | 富士の巻狩り | 92 |
| 第三節 | 鎌倉時代の富士宮 | 96 |
| 第四節 | 室町幕府の成立と南北朝内乱 | 100 |
| 第五節 | 今川氏の支配と富士宮 | 104 |
| 第六節 | 戦国の幕開けと駿河 | 108 |

第四章 戦国時代の富士宮地域

| | | |
|-----|----------------|-----|
| 第一節 | 今川氏の戦国大名化と富士地域 | 136 |
| 第二節 | 河東一乱による富士上方の戦乱 | 140 |
| 第三節 | 今川氏の領国経営 | 144 |
| 第四節 | 武田信玄の駿河侵攻と富士氏 | 148 |
| 第五節 | 武田氏の領国経営 | 156 |
| 第六節 | 武田から徳川へ | 160 |
| 第七節 | 徳川氏の領国経営 | 164 |
| 第八節 | 戦国時代の地域社会 | 170 |

第三章 古代・中世の宗教と信仰

| | | |
|-----|-----------------|-----|
| 第一節 | 文献から見る富士山本宮浅間大社 | 112 |
| 第二節 | 文献から見る山宮浅間神社 | 116 |
| 第三節 | 文献から見る村山浅間神社 | 118 |
| 第四節 | 考古学から見た浅間神社 | 122 |
| 第五節 | 古代・中世の神社 | 126 |
| 第六節 | 古代・中世の寺院 | 128 |
| 第七節 | 大石寺・本門寺・久遠寺 | 132 |

第五章 富士山と信仰

| | | |
|-----|---------------|-----|
| 第一節 | 富士山への信仰登山の広がり | 174 |
| 第二節 | 末代上人と富士山修行 | 180 |
| 第三節 | 富士山縁起と赫夜姫 | 186 |
| 第四節 | 浅間大菩薩と富士の人穴信仰 | 192 |
| 第五節 | 富士曼荼羅図の世界 | 196 |
| 第六節 | 富士山頂の信仰世界 | 202 |

富士宮市の縄文土器編年

206

富士宮市の弥生土器編年

215

中世の郷村に関わる史料と地名表記

222

富士宮市の歴史年表(古代・中世)

230

参考文献

234

関係者一覧

244

索引

246

例言

- ・本書は令和元年度より開始した市史編さん事業の成果として刊行するものである。
- ・本書の総括は第一編は市史編さん委員の谷川章雄（早稲田大学名誉教授）、第二編は市史編さん委員の山田邦明（愛知大学文学部教授）が担当し、執筆分担は巻末に記した。
- ・本書における年の表記は原則として和暦とし、節の初出の和暦には西暦を併記した。
例…令和七年（二〇二五）
- ・本書に掲載する旧国名や地名には、必要に応じて現行地名を併記した。
例…甲斐（山梨県）
- ・本文中の写真・図・表には、「写真1-1」のように章ごとに通し番号を付した。資料の所蔵者・提供者や転載・引用の典拠などはキャプション内に記載した。ただし、執筆者や富士宮市が提供・作成したものについては省略した。
- ・本書の参考文献は巻末にまとめ、本文中で参照する場合は（富士宮市一九七二）などと表記した。